

ブルートレインを牽引した、最後のC62

KATO
PRECISION RAILROAD MODELS

C62 常磐形 **N** (ゆうづる牽引機)

1月発売



*写真・佐竹保雄

昭和26年(1951)に「あさかせ」の運転が始まると、山陽本線の非電化区間はC62が牽引機となりました。その後「はやぶさ」、「さくら」、「みずほ」も同区間ではC62が牽引の任につきました。これらは昭和34年(1959)の山陽本線全線電化まで続き、これでC62によるブルートレインの牽引は一旦終わりましたが、昭和40年(1965)のダイヤ改正で上野-青森間に常磐線経由のブルートレイン「ゆうづる」が設定され、当時は常磐線の平以北が非電化だったため、平-仙台間を平機関区のC62が牽引する事になりました。当時、既にDD51が活躍していましたが、この区間は電化完成が間近だったため、あえてディーゼル機関車を投入せず、C62の牽引とされました。これは常磐線の電化が完成する昭和42年(1967)8月まで続きました。

●C62常磐形が牽引する「ゆうづる」とその他の客車列車

20系「ゆうづる」基本セット

20系ナハネ20 6両セット

- 昭和42年(1967)頃の平機関区所属23号機(川崎車輛製)がプロトタイプ。
- 常磐形の特徴である副灯やカバーなし逆転機、テンダー増炭板、側面Noプレート位置が高いキャブなどを的確に再現。
- 23号機の特徴である短い煙突を新規作製。交換用として通常タイプの煙突を付属。

●特急「ゆうづる」(上野-青森):平~仙台

S41/7~S42/7 C62常磐形 カニ21 ナロネ21 ナロネ21 ナハネ20 ナハネ20 ナシ20 ナハネ20 ナハネ20 ナハネ20 ナハネ20 ナハネ20 ナハネ20 ナハネ20 ナハネ20 ナハネ20

●常磐線普通列車

S41頃 C62常磐形 C62常磐形 スハフ32 スハフ32 スハフ32 スハフ32 スハフ32 スハフ32 スハフ32 スハフ32

●急行北海道観光(上野-青森)

S41頃 C62常磐形 ナハネ10 オハネ17 オハネ17 オハネ17 オハネ17 オハネ17 オハネ17 オハネ17 ナハネ10 オハネ17 オハネ17 ナハネ10

●急行安芸(東京-下関):糸崎~広島間

S44頃 C62常磐形 オハネ12 オハネ12 スハネ16 オシ17 スハネ16 オハネ12 オハネ12 オハネ12 オハネ12 オハネ12

●呉線普通列車

S44頃 C62常磐形 スハフ42 オハ35 オハフ33 オハ35 スハ43 スハ43 オハ35 オハフ33